

福島県職員（職務経験者） 採用候補者試験説明会

～業務紹介～

商工労働部 商業まちづくり課 主事

本日の説明内容

- ▶ 福島県職員を志望した動機・理由
- ▶ 担当してきた業務内容
- ▶ 職場の雰囲気、業務の進め方
- ▶ 民間企業との違い・ギャップ
- ▶ 入庁前に抱えていた不安
- ▶ 転職して思った県職員の魅力
- ▶ 試験にどのように臨んだか
- ▶ 受験希望者の皆様へ

福島県職員を志望した動機・理由

- ▶ 多様な職種、業務を経験してみたい
- ▶ キャリアチェンジと年齢の関係
- ▶ 生まれ育った福島県に貢献できる仕事がしたい
- ▶ 民間経験者の採用枠があった

福島県商工労働部 施策概要

○令和5年度は、東日本大震災等による被災事業者の事業再開支援や、地域経済を支える既存産業の成長・発展と次の時代をけん引する再エネ、医療、ロボット等の関連産業の育成・集積、産業人材の確保、域内観光モデルの創出、県産酒の販売や地産地消の促進等に取り組み、復興・創生を推進するため各種施策を実施しました。

○令和6年度は、引き続き県内企業の人材確保や中小企業のDX化、カーボンニュートラルの推進に取り組みます。

商工業

令和5年度の主な取組（実績）

【商工業振興基本計画に掲げる主な指標】

双葉郡の商工会会員事業所の事業再開状況
目標値(R5):81.8% **最新値(R5):87.9%** 目標値(R12):100.0%

中小企業支援機関の相談件数
目標値(R5):目標値なし **最新値(R5):154,192件** 目標値(R12):目標値なし

○12市町村における創業及び事業展開への支援

創業促進・企業誘致に向けた設備投資等支援補助金の
交付決定件数：<16/目標値を設定しない>

○再生可能エネルギー産業の育成・集積

事業化伴走支援企業数【R3年度からの累計】：<62/90件>

○医療機器関連産業の育成・集積

ふくしま医療機器開発支援センターの評価試験等実績
：<279/268件>

○ロボット関連産業の育成・集積

メイドインふくしまロボット件数：<62/49件>

○中小事業者の経営継続支援

オールふくしまサポート委員会による経営支援対応件数
：<50/50件>

○製造業のDX人材育成

テクノアカデミーにおけるDX関連講義時間数
：<1,071/1,000時間>

<実績値/目標値>



事業再開した事業者



県内企業が開発に関わった次世代医療機器



福島ロボットテストフィールド

令和6年度の主な取組

【予算額単位：億円】

○原子力災害被災地域創業等支援事業【4.5】

原子力災害により甚大な被害を受けた12市町村内における創業や事業展開に対して、その事業に要する経費の一部を補助する。

○再エネ関連産業産学官連携・販路拡大促進事業【2.8】

支援機関を核として、ネットワークの構築から、新規参入、人材育成、研究開発、事業化、販路拡大、海外展開まで、一体的・総合的に支援する。

○ふくしまがつなぐ医療関連産業集積推進事業【1.8】

ふくしま医療機器開発支援センターを活用することで、次世代の医療機器開発にも対応した案件の集積を図るとともに、県内ものづくり企業と開発案件との接点をつくり、新たなしごとを創出する。

○チャレンジふくしま「ロボット産業革命の地」創出事業【4.8】

県内企業や大学等によるロボットや要素技術の研究開発に対する支援、ハイテクプラザにおける研究開発・技術支援、県産ロボットの導入助成、ロボットフェスタの開催、産学官連携による協議会の運営など、ロボット関連産業の育成・集積を図る。

○ものづくり産業におけるDX人材育成事業【0.5】

テクノアカデミーにおける若年層のDX人材の育成から、県内中小企業（製造業）を対象としたDX人材の育成支援まで一体的に取り組むことでDXの推進を図る。

○ふくしま中小企業者DX伴走支援事業【0.6】

県内事業者を対象にDXに対する理解促進を図るとともに、デジタルに知見を有する専門家と企業をマッチングして伴走支援を行うことで、企業のDXを推進し、経営課題の解決、生産性の向上を図る。

福島県商工労働部 施策概要

労働

令和5年度の主な取組（実績）

【商工業振興基本計画に掲げる主な指標】

安定的な雇用者数（雇用保険の被保険者数）
 目標値(R5):581,000人 **最新値(R5):562,547人** 目標値(R12):581,000人

○学生等への県内就職支援 <実績値/目標値>

センター相談件数：**<32,323/32,000件>**

○女性の働きやすい職場環境づくり

次世代育成支援企業認証（累計）：**<1,081/1,042件>**

○産業人材の育成

テクノアカデミーにおける次世代航空関連産業に関する
 講義時間数：**<926/800時間>**



令和6年度の主な取組

【予算額単位：億円】

○ふくしまで働こう！就職応援事業【2.5】

学生等への就職相談から就職後の職場定着までをワンストップで支援するとともに、Webサイトにより県内の企業・求人情報を幅広く発信することで、県内産業の人材確保・定着を図る。

○女性活躍・働き方改革促進事業【0.7】

各種セミナーやコンサルティングを実施するとともに、ワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組む企業の認証や助成金・奨励金制度により企業の働きやすい職場環境づくりの取組を支援する

○『感動！ふくしま』プロジェクト【4.3】

SNS等様々な広報媒体を活用して企業の魅力を発信するとともに、職業体験や企業見学などを通じて小学生から大学生、保護者等への県内企業の認知度向上を図り、人材確保につなげる。

観光交流

令和5年度の主な取組（実績）

【商工業振興基本計画に掲げる主な指標】

観光客入込数
 目標値(R5):47,000千人 **最新値(R5):53,923千人（推計値）**
 目標値(R12)：60,000千人

県産品輸出額
 目標値(R5):1,304百万円 **最新値(R4):1,380百万円** 目標値(R12)：2,000百万円

○地域の観光コンテンツの魅力向上 <実績値/目標値>

延べ支援数：**<14/12件>**

○インバウンドの誘客促進

市場別SNS等での情報発信回数：**<1,141/1,210回>**

○福島空港の利用促進

福島空港利用者数：**<22.9万人/22.5万人>**

○県産品の販路拡大、ブランド力向上

各国におけるプロモーション品目数の合計：**<9/14回>**



令和6年度の主な取組

【予算額単位：億円】

○観光地域づくり総合支援事業【1.1】

地域の観光コンテンツの磨き上げに係る一連のサポートを行うほか、地域と協働したニューツーリズムのモデル造成や企業と連携した誘客促進を実施する。

○福島インバウンド復興対策事業【3.2】

誘客のフェーズを意識した戦略的なインバウンド誘致を展開する。

○国際定期路線等開設・再開事業【8.9】

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う国際定期路線の運休が続く中、国際定期路線の開設・再開を目指し、国際チャーター便の運航促進を図る。

○県産品振興戦略実践プロジェクト【0.7】

ふくしま応援シェフや観光物産交流協会等と連携した県産品の情報発信を行うとともに、県産品の海外販路拡大による風評払拭や販路の開拓、県産品のブランド力向上を図る。

～商業まちづくり課の業務～

- ▶ 商業の振興に関すること
- ▶ 中心市街地の活性化に関すること
- ▶ 大規模小売店舗立地法に関すること
- ▶ 商業まちづくりの推進に関する条例に関すること 等

担当してきた業務内容①

商工労働部 商業まちづくり課 (入庁～2年目)

▶ 主な担当業務

大規模小売店舗立地法に関すること

- ・ 大規模小売店舗(店舗面積1,000㎡超)に係る届出処理等

例) ドラッグストア、スーパー

商業まちづくりの推進に関する条例に関すること

- ・ 特定小売商業施設(店舗面積8,000㎡超)に係る届出処理等

例) ショッピングモール

担当してきた業務内容②

商工労働部 商業まちづくり課（3年目～現在）

▶ 主な担当業務

課の予算決算に関すること

- ・民間企業の経理担当のようなもの

地域商業環境づくり支援事業に関すること

- ・まちなかや地域商業の課題解決のための新たな取り組みに対して補助をする
- ふくしま小規模企業者等いきいき支援事業(商店街枠)に関すること
- ・集客イベントや商店街設備の向上、買い物困難者対策等に対し補助をする

担当してきた業務内容③

▶ やりがい

- ・ 多様な分野に携わることができすべてが新鮮
- ・ 携わった商業施設等の開店

▶ 得られた経験等

- ・ 国、市町村及び事業者等との調整力
- ・ 商店街及び中心市街地を取りまく状況に係る知見

▶ その他

前職の経験が活かせる職場（顧客対応等）

職場の雰囲気、業務の進め方

- ▶ 風通しの良い職場
- ▶ 業務は担当者に与えられる裁量が大きい
 - ・まずは担当者、困りごと等は課で共有し解決
- ▶ 組織規模の大きさ
 - ・関係先との調整の数、意思決定までの時間

民間企業との違い・ギャップ

- ▶ 組織の規模感
 - ・ 規模が大きく、組織内でも調整が多い。
- ▶ 幅広い職務に応じた知識が必要
 - ・ 担当業務が変わる都度新たな知識が必要となる。
- ▶ 人事評価
 - ・ 民間企業のように実績や成果で評価しにくい。
- ▶ 県民に対する責任
 - ・ 県職員は県民全体の奉仕者。公私問わず意識する必要。

入庁前に抱えていた不安

▶ 業務面

- ・ 行政事務職の業務は多岐にわたる。職務経験が活かせるか...
→ 県職員とは異なる視点。前職の知識・経験は必ず活かせる。

▶ 収入面

- ・ 具体的な収入のイメージがつかない...
→ 職務経験を考慮。結果的にはなんとかなる（なった）。

▶ 生活面

- ・ 県庁はいつまでも明るい。残業ばかり...
→ ピーク時は残業も必要。メリハリのある職場。

転職して思う県職員の魅力

▶ 業務面

- ・ 職務の幅が広く、これまでにない新しい事（自身では知りえない分野）に出会え、それに挑戦する機会ができる。
- ・ 県職員だからこそ、業務を通じて幅広く地域のために仕事ができる。

▶ 生活面

- ・ ワークライフバランスを意識できる環境。
- ・ 職場の理解。育児休暇等も取得できて、私生活も充実。

試験にどのように臨んだか

▶ 教養試験

- ・ 社会人向け試験対策本を通読

▶ 面接

- ・ 民間での経験が県の仕事にどのように生きるか具体イメージ

受験希望者の皆様へ

- ▶ 福島県庁の仕事は、社会の変化に応じて、創意工夫をこらし日々進化させて行くことができる魅力あるもの。
- ▶ 民間での職務経験は他の県職員にない特別なもの。日々の業務の中でも必ず生きてくるもの。

皆様と一緒に働ける日を楽しみにしています！